

北川治水ダム建設事業環境影響評価書

平成6年3月

滋 賀 県

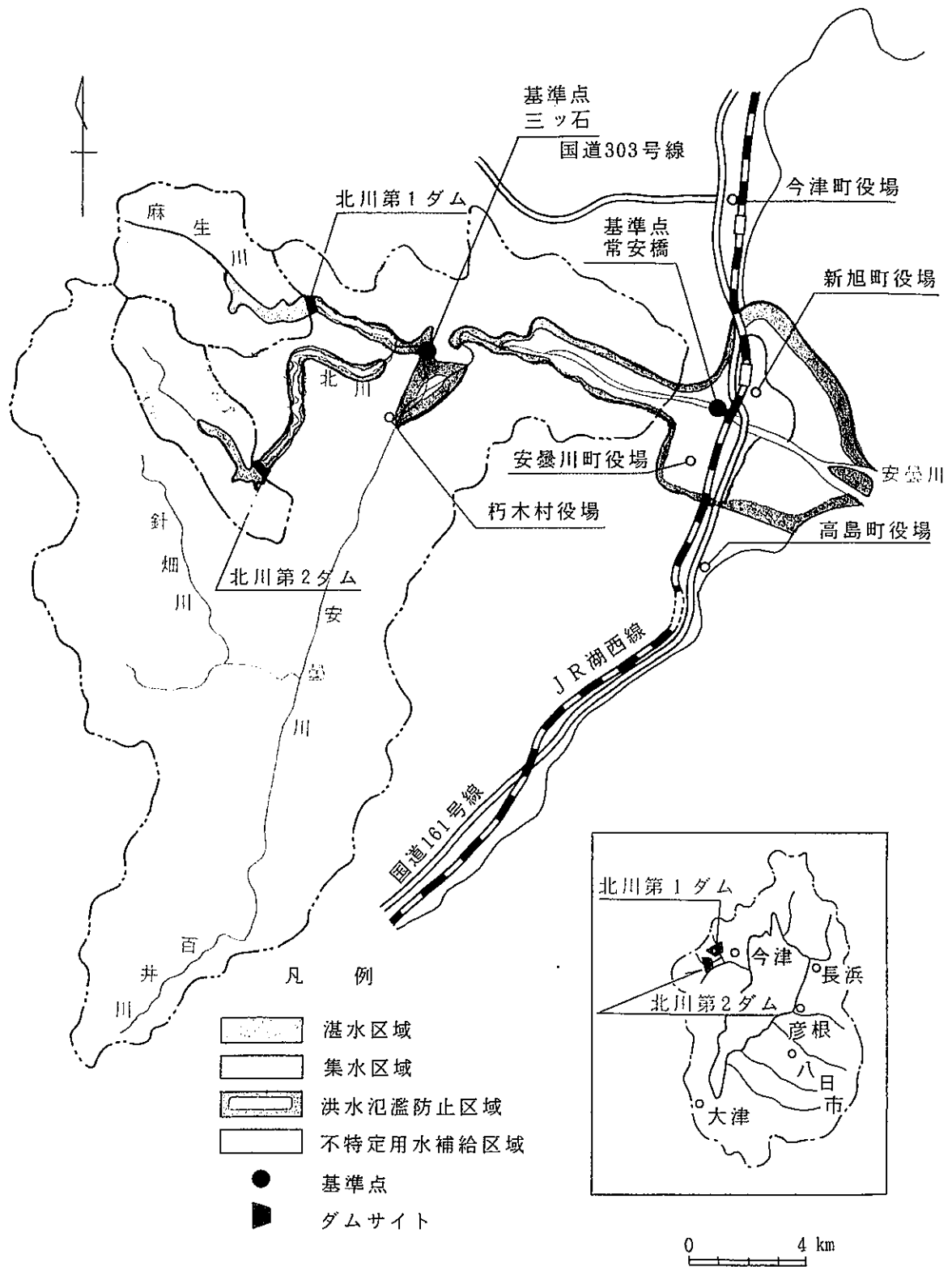


図-1.4.1 北川第1ダム、北川第2ダム流域等位置図

(ホ) 貴重種等

陸生動物の貴重種等の抽出は、表-5.4.15に示す文献・資料を判断基準とした。現地調査の結果、調査地域ではこれらの文献・資料に示された貴重種等として、哺乳類8種、鳥類10種、両生類4種、昆虫類29種の生息が確認された。また、現地調査では生息が確認されなかったが、上記の文献・資料に分布域が図示されたものとして、昆虫類2種（エゾミドリシジミ及びヒサマツミドリシジミ）がある。表-5.4.16に、これら貴重種等の判断基準及び選定理由を、図-5.4.8には各種別の生息確認地点を示す。

なお、現地調査や既存の文献・資料では生息が確認されなかったが、聞き取り調査によれば、イヌワシ、オオサンショウウオ、ギフチョウの3種が調査地域内に生息・分布している可能性がある。こもらの生息・分布の確認状況は以下のとおりである。

(a) イヌワシ

滋賀県朽木村と福井県小浜市の県境の百里ヶ岳から駒ヶ岳にかけての一带（百駒山系）に、つがいが生息していることが日本イヌワシ研究会の会員によって確認され、新聞でも報道されている。（朝日新聞1992年5月14日付、滋賀版、福井版）

(b) オオサンショウウオ

昭和47年に安曇川の高岩橋付近で捕獲されたものが朽木村での最も新しい記録である。

(c) ギフチョウ

朽木村内では4月上旬頃に成虫が発生するが、比較的散在して分布し、特に局所的に多産する場所はない。なお、ギフチョウの幼虫の食草は、当該地域ではミヤコアオイとアツミカンアオイであると考えられる。